



## 第11回かながわ教育学講座 シンポジウム:「教員という仕事の魅力と責任」



<ねらい> : カレッジ出身の現職教員に話を聞き、教員という仕事の魅力と責任、身に付けるべき力について考える。

令和2年12月20日(日)に総合教育センター善行庁舎において、第11回かながわ教育学講座を開催しました。

### シンポジウム

「教員という仕事の魅力と責任」のテーマのもと、5名のティーチャーズカレッジ出身の現職教員を招き、シンポジウムを行いました。



二宮町立山西小学校  
鈴木 智絵 教諭

子どもたちの小さな成長にも気付くことができるのが教員の魅力だと思う。特に「できた」や「分かった」という子どもたちの喜びと一緒に感じることができるのが自分にとっても喜びである。

カレッジで学んだ「教育のユニバーサルデザイン化」は、特に役立っている。視覚情報を整えたり、指示を明確にしたりすることで、どの児童にも分かりやすいように工夫している。



大和市立下福田中学校  
岡本 大輝 教諭

着任後は、担当教科において「苦手」や「嫌い」といった状態になってしまう生徒が出てきてしまうことへの責任を感じている。興味を持たせることやモチベーションを高めてあげることを大切にしながら、指導をしていくことを意識している。

カレッジで幅広く基礎を学ぶことができたので、現場で困ることが少ないです。



県立愛川高等学校  
澁谷 泰平 教諭

生徒の成長とともに、自分自身も成長できることが教員の大きな魅力である。生徒から学ぶこともとても多く、自分自身をどんどん刷新していく感覚がとても楽しい。

自分の理想などを議論することは、実際の教職に就くとなかなかできない。そのため、理想や熱い思いを共有できるカレッジ同期の存在は、今でも心の支えになっている。



県立保土ヶ谷養護学校  
酒井 美砂江 教諭

児童の命を守ることが教員として最も大事だと感じている。たとえ環境整備ができて室内であっても、危険な場面はたくさんある。特に低学年は、一時も目を離さずに接している。

カレッジの仲間とは社会人になっても近況報告をしている。同じ志を持つ仲間であるから相談がしやすく、心の支えになっている。



県立大和南高等学校  
森島 かな江 養護教諭

生徒の呼び方や生徒に対する言葉遣いがとても大切だと感じている。日常の言葉遣いがそのまま出てしまうので、その時だけ意識しようとしても難しい。今から少しずつ意識していくと良いと思う。

お勧めしたいことは、メモを取ること。メモを取るとは、生徒の変容を見取ることができるだけでなく、時には自分を守ってくれることにも繋がると感じている。

## 講義・グループ活動

神奈川県教育委員会 松西行政課長より「教員のコンプライアンス」の講義を行いました。教員には、勤務時間の内外を問わず、高い倫理観やモラルが求められます。「未来を創る」子どもを育てるためには、教員に求められるコンプライアンスを意識し、しっかりと自分を磨きながら、自律した人間として行動できるように努めなければなりません。

グループ活動では「マンダラート」※を用いて、「めざす教職員像」を明確にし、「やるべきこと」や「具体的な取組」について考えました。神奈川県が求める教職員像として、①人格的資質と情熱をもっている人、②子どもや社会の変化による課題を把握し解決できる人、③子どもが自ら取り組むわかりやすい授業を実践できる人の3つが挙げられます。かながわ教育学講座でも下記のように取り組んできました。

①	②	③
「明日を創る子どもを育てる」	「インクルーシブ教育」	「いま求められる授業」
「神奈川県の求める教職員像」	「児童・生徒指導」	「授業づくりを学ぶ①②」
「コミュニケーション能力の育成」	「学校教育における人権」	「道徳教育」
「教員という仕事の魅力と責任」		「授業発表①②」

これまでの講座を振り返りながら、各自で「マンダラート」を完成させ、教員を目指すため、そして教員になってからの道標として活用してください。

### ※マンダラート

紙に3×3の9つのマスを書き、その中心に考えたいことを書き込み、周りのマスにはそれに関連する事柄を埋めていきます。

